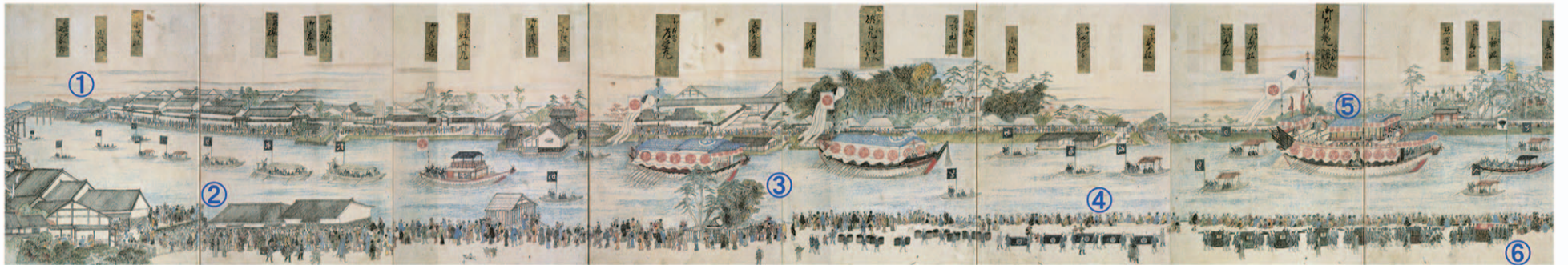


いつも心に川がある
堀川まちづくりの会企画展

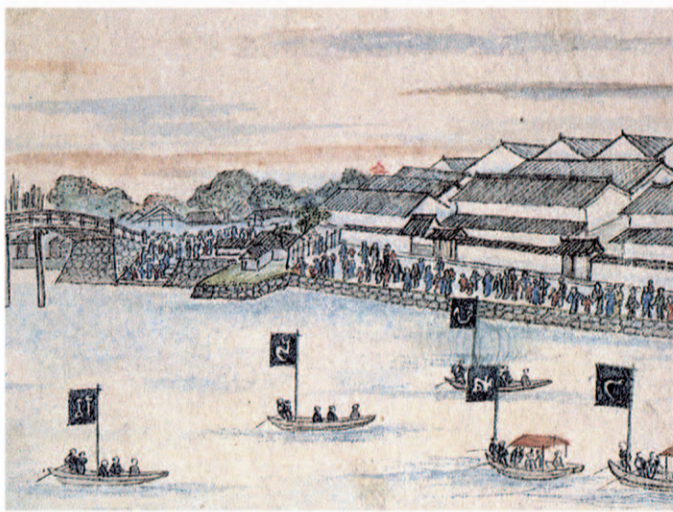
舟運・筏・川遊び 堀川のにぎわい お姫様の船遊び

享和2年(1802)9月に、9代藩主宗睦の養子治行の夫人聖聡院が、堀川で豪華な船遊びをしている。

惣河戸(現:景雲橋)で御座船彩鷓丸に乗り、31隻の船隊で熱田前新田まで下っていった。この風景は、『御船御行列之図』(市博物館蔵)に描かれて今に伝わり、堀川の長い歴史のなかでも一番豪華絢爛たるイベントであった。聖聡院はずいぶんお気に召したようで、10月にも再び船遊びを行っている。その絵から当時の光景を絵解きしてみよう。



①



納屋橋と御蔵

◎納屋橋の上には人影がない。警備のために通行規制がされている。
◎橋の東南には、年貢米を収蔵する藩の御蔵が建ち並んでいる。

③

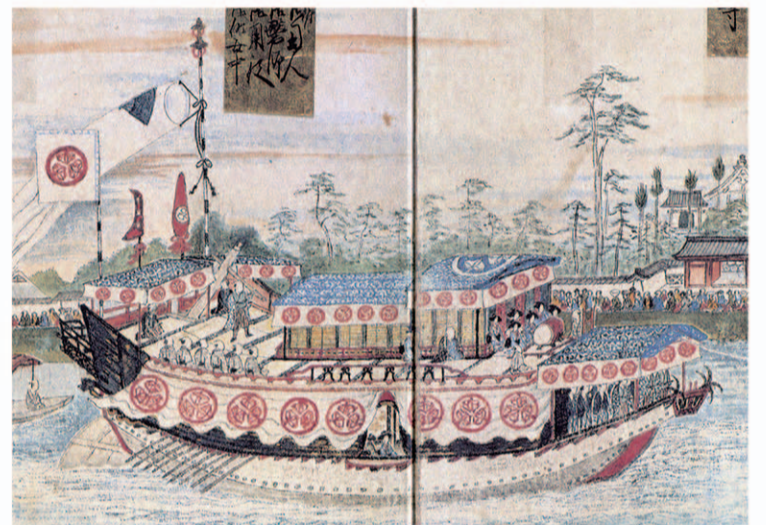


川岸の社

◎姿は変わったが、今もこの場所に鎮座している。(下図)



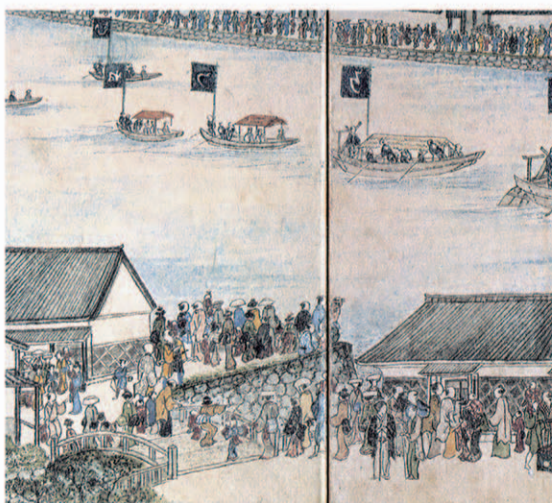
⑤



聖聡院が乗船している彩鷓丸

◎葵の紋を染め抜いた幕と旗が付けられている。幕を上げた所に見えているのが聖聡院。
◎吹き流しには、この航行の指揮をとっている御船奉行千賀氏の扇の紋が見えている。船尾の天幕下に正座しているのが千賀氏であろう。
◎船首の甲板には、奥女中たちの姿が見える。鐘と太鼓を叩いて賑やかに通航した。

②



江川からの水路

◎江川から堀川へ水を落とす水路がある。今の天王崎橋下流あたりだ。
◎一時期この水路に水車がかかけられ、西の地域は水車町と呼ばれた。

④



岸には見物客がびっしり

◎聖聡院は船から岸を見物、庶民は岸から行列を見物。

⑥



船と一緒に駕籠が行く

◎上級武士が船から下りた時に乗る駕籠と一緒に岸を進んでいる。聖聡院が乗るのは葵の紋が付き、8人で担ぐものだ。